

第5回 契約監視委員会 議事要旨

沖縄科学技術大学院大学

1. 日時 2014年1月22日(水曜) 14時00分～16時00分
2. 場所 OIST A150 会議室
3. 出席委員 野里洋委員、樫谷隆夫委員、多田敏明委員、内間直人委員
清家孝行委員 (欠席:楠茂樹委員、滑川達委員)
オブザーバー OIST 監事:相馬清貴、松田浩二

4. 議事概要

(1) 審議案件の抽出について

内間委員が対象の165件から、契約方式別に8件の抽出を行った旨報告された。
(一般入札 3件、総合評価方式 1件、公募随契 1件、特命随契 2件、見積合せ随契 1件)

(2) 個別案件の審議について

① UVパルスレーザー導入光学システム 一式の購入

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
前回の値引き率を本件の予定価格に適用したということだが、研究機器の値引き率が一定だと考えていいのか。 機器によっては、時間が経過すると(すなわち、モデルが古くなる)、値引き率が大きくなる傾向にある。逆の場合もある。本件はどのような検討をしたのか。	理化学機器の場合、通常、値引き率はほとんど変わらないので、本件も前回の率を適用した。
他の機関との率の比較は？	本件は、既存の顕微鏡のバージョンアップを行うもの。既存部分の調達時は、他の国立大学と研究機関に値引き率の照会をかけた。
この機器のバージョンアップの頻度はどの程度か？	この顕微鏡は稼働率も高く、ほぼ毎年バージョンアップを実施している。

<p>メーカーから、基本になる部分について、新型が投入された場合は、旧型と新型とでは、値引き率が違うと思う。旧型を購入する場合は、価格交渉の余地があるはず。</p>	<p>旧型を購入する場合は、ご指摘のとおり値引き率が大きくなると想定されるので価格交渉をきちんと行う。 ただ、OISTは、最先端の研究をしているので、より性能の良いものを、という意味決定になり、新型がある場合には旧型を購入することにはならないと思われる。</p>
--	---

② ワイヤレスアクセスポイント 一式の購入

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
<p>4者見積もりを取ったということだが、明細単位で検討すると、これはA代理店が一番安い、これはB代理店が一番安いということがあるか。そのような場合はどうするのか？</p>	<p>本件は一部の物品について、調達実績があったので、その物品は実績を予定価格とした。全ての項目が新規の調達の場合は、安い代理店の価格部分を取る方式も採用している。</p>
<p>CTCの見積書の日付は10月7日で入札日は10月3日である。入札後の書類が見積書と言えるのか。</p>	<p>本件、入札の2回目に落札した。その場で見積書を事前に用意するのは時間的に厳しいので、このように入札が複数回になった場合は、後日この入札額に対応する見積書を提出させることがある。</p>

③ 第3研究棟新営その他工事

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
<p>前年度、不調に終わった理由は分析したか。</p>	<p>この予算は2年前に設定したもの。この2年間で、資材と労務単価が急上昇した。業界が東日本大震災の復興事業に集中しており、その中でも工事監督者が足りないという状況が発生している。</p>
<p>労務費について、単価は国の基準を参考にしているのか。</p>	<p>そのとおり。国交省の積算基準を参考にしている。</p>

沖縄県の業者は参加したのか。	県内企業が参加できるように競争参加資格を設定した。実際、1回目の入札は地元の業者の参加があったが、2回目以降は参加者がなかった。
海外の業者向けに公告したのか。	できるだけ競争的になるよう、英語でも公告した。

④ 第3研究棟新営電気設備工事

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
本件は総合評価方式を採用したとのことだが、落札した企業の施工計画は、どのような点で具体的に優れていたのか。	施工計画の妥当性、配置予定監理技術者の実績、本工事の理解度、配置予定技術者の能力を評価した結果、全項目とも落札業者の評点が高かった。
それぞれの項目ごとに、複数名の委員で協議して評価を決めていると思うが、その際の内部の評価基準を定めているか。	各評価項目について、評価の観点は規定しているが、客観的な数値基準は定めていない。
総合評価の場合、難しいところであるが、事前に客観的な数値基準をある程度決めておき、誰が委員になっても評価ができるだけ同等になるような方式にしている。例えば、キーワードを決めておくなど。	今後の参考にしたい。

⑤ 8-3工区開発行為許可取得及び設計業務

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
参加者確認公募と一般競争との違いは？	単純随意契約ではなく、競争性を持たせるため、「OISTはこの業務で特定の企業と契約しようとしているが、他に参加業者がないか」を公告で確認した後、契約を締結する方式である。

<p>工区は細かく分けないといけないのか。まとめた方が請負業者も計画的に遂行できるし、トータルのコストも下がるのでは。</p>	<p>時間面と予算面との制約を総合的に検討し発注単位を決めている。確かに、設計と施工など、セットで発注した方が効率的な面もあるが、公平性、競争性や透明性の観点での考慮も必要である。</p>
<p>契約額が予定価格の 76%になっているが、差異理由は？</p>	<p>国交省のガイドラインに沿って予定価格を積算した。OIST の場合、このようなコンサル業務について、直接経費を算定し、諸経費を一定の%で算出し合計している。本件は請負業者の方で、規模と内容を判断して予定価格よりも低い提示となったと思われる。</p>
<p>具体的にこの方法で見積書を作成してほしいと要求すれば、事業者間の比較や過去案件との比較がやり易いのではないか。</p>	<p>一般の工事については、公告資料に参考数量表があり、参考となる数値を付けているので、業者間の見積もり結果は似てくる。コンサルの場合は若干異なってくる。</p>

⑥ 行動実験用防音室の購入

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
<p>OIST の想定よりも、当初の提示価格が高かったということか。</p>	<p>そのとおり。この業者からは、以前にも同様の防音施設を購入しており、当該購入実績を参考にしながら価格交渉を行った。</p>
<p>この業者以外に、候補企業がないということをどのように調べるのか。</p>	<p>本件、クリーンルーム内での施工という特殊な条件下での工事であること、設計、資材の手配、設置工事までを実施可能な業者は国内では1社に限定されている。また、随意契約可能な基準が 500 万円であり、それを下回る価格だったため、参加者確認公募の手続きは採用していない。</p>

トータルでは、この工事を施工できるのは1社のみだったということだが、工事を分割すれば競争的な環境になるのか。	作業時の服装、工具も全て消毒するという特殊な施工になるので、通常の業者は難しい。設計、材料、工事を分けると弊害も想定されることから、今回は1社で全てを実施可能な業者に発注した
価格交渉の際の材料をいかに確保するかが重要なので、部分的に供給可能な業者からその部分の見積もりを取得しておくことも、価格交渉に有効だろう。	今後の参考にしたい。

⑦ チャイルドディベロップメントセンター実施設計業務

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
本件は、実施設計業務ということは、基本設計も同じ業者か。	そのとおり。基本設計の業者に本業務を特定し、参加者確認公募を行った。
沖縄県の場合も、建築の実施設計は業務が専門的かつ複雑となるので、基本設計を実施した業者と随意契約している。ただ、土木は、切り離して入札している。	—

⑧ 多光子励起レーザー走査型顕微鏡専用対物レンズ 一式の購入

委員会の意見・コメント	事務局の説明等
見積書を提出した2社はこのメーカーの代理店か。	そのとおり。このメーカーは典型的な代理店制度を採用している。
この代理店は、価格決定の裁量を持っているか。このメーカーが決めるのか。	代理店が価格決定権を持っている。
本来なら、1円でも提示価格が違えば、勝ち負けが分かれる。なぜ、全く同じ価格になったのか。契約を取る気がなかったのだろうか。	価格の決定権は代理店にあるので、提示額が全く同じになることは稀なケースである。

見積合わせで提示額が同額の場合の手続きの方法を事前に業者に説明しておくことが競争意欲を高めることにつながり、望ましい。	検討する。
機器が古くなって旧式になった場合の処分はどのようにしているか。	OIST は設立して間もないので、ほとんど処分した事例はない。ただ、一部の機器を下取りに出して、その新機種を購入した事例はある。

(3)これまでの提言に対する OIST の対応状況について

別紙の資料に基づき、事務局から対応状況について報告した。

久保副学長から、2009 年から就任されてきた野里委員長と楠委員が今回で退任されること、また、人事異動で2委員が交替されることを報告するとともに、OIST の調達について、これまで適切なお意見・ご助言をいただきたいことに対し謝意を述べた。

(4)次回の日程

新委員の委嘱後、本年 7 月を目途に沖縄又は東京で開催する。

EOF